

私の愛する…

第一工芸(株) 加藤真司

私がサッカーを始めたきっかけは、父親がやっていたから…というよくある理由でした。幼稚園の時から小学生のチームで、中学の時はクラブチームでやっていましたので、とても良い環境でサッカーをすることが出来ました。高校時代は、全国大会を目標にはしていましたが、東京の無名校でしたので、全く縁のない3年間でした。そんな中でも、3年生の時にはキャプテンを任せられ、目標に少しでも近づけるように、チームを一つにして日々の練習を重ねました。結果を残すことは出来ませんでした、とても充実し、心の底からサッカーに取り組めた3年間になりました。高校でサッカーはやめるつもりでしたが、阪南大学から推薦の話があり、諦め半分でセレクションに参加したところ合格となりました。ここから私のサッカー人生で、過酷でしたが最高の4年間がスタートしました。

まず驚いたのは、150人という部員数と、個々のレベルの高さでした。先輩、同期、後輩でプロになった人が何人もいましたので、凄い環境でサッカーをしていたのだとつくづく感じます。阪南大学では、今まで経験したことのない戦術、フォーメーション、そして練習から全員が高いモチベーションを持ってサッカーに取り組んでいました。部の寮には、ウェイトトレーニングの機械が何種類もありましたので、練習後や入浴前、1時間から2時間のトレーニングが当たり前でした。このおかげで、入学当初は当たり負けをしていましたが、1年後にはほとんど当たり負けしないほどの体を作ることが出来ました。特に、練習試合で、ガンバ大阪やセレッソ大阪のプロ選手と試合が出来たことは、ひじょうに良い勉強になりました。課題も見つけることが出来、とても成長することが出来たと思います。

大学最後の試合は、ちょうど第1回目として開催された関西の社会人チームの頂点を決める大会でした。4年生はもちろん最後の大会になるので、大会前の練習やミーティングにはいつも以上に熱が入り、夜中まで続けていたのを覚えています。今思えば、試合に勝つためというよりも、1分1秒でもこのメンバーでサッカーをしたいという気持ちがあったからこそでしょう。最後の大会…、チーム一丸となり決勝まですすむことが出来ました。そして決勝戦前夜、明日が最後の試合だと思うと、緊張とも興奮ともわからぬ気持ちでいっぱいになり、なかなか眠れなかったのですが、私はフォワードですので「明日絶対得点する!」という闘志をメラメラと燃やしていたことを覚えています。当日は、何故かリラックスしてアップに取り組めましたが、試合前にチームで円陣を組み気合を入れ、仲間と握手をして整列した瞬間に、とてつもない緊張感に襲われ、プレッシャーで足が震えました。しかし、試合開始のホイッスルが鳴ると、緊張も足の震えもなくなっていました。試合は4対0で勝ち、関西の頂点になりました。私自身も2得点を決めることが出来ました。小・中・高校時代と、負けて悔し涙の引退をしてきましたが、始めて嬉し涙での引退となりました。決勝戦であげたゴールは今でも鮮明に記憶に残っています。

大学で共に戦った仲間たちとは、辛い練習、負けた試合、勝った試合、私生活と、4年間ずっと一緒でした。もちろんケンカもたくさんしましたが、全て仲間(チーム)のためのケンカでしたので、すぐに打ち解けることが出来ました。まだまだこの仲間(チーム)と一緒にサッカーをしたかったと、今でもふと思うことがあります。最近も、ご飯やお酒を仲間と食べたり飲んだりする時、話の大半は大学時代のサッカーの話です。その当時は負けて泣くくらい悔しかった試合も、今では笑い話として話しているのがとても不思議ですが、今後も仲間たちとサッカー話で盛り上げられるような関係を続けていけたら素敵なおことだと思います。もちろん今でも東大阪FC(社会人大阪一部リーグ)でサッカーを続けています。大学の時のように体は動かないですが、あの頃と変わらない熱い気持ちで取り組んでいます。

今の会社に入社してから、とても感動し、思い出に残っている出来事がありました。2008年、国体の大阪代表に選ばれました。その際、国際サッカー交流大会として韓国の社会人チームと試合をすることになり、このことを社長に伝えると、私の横断幕を作ってください、そのうえ、会社の方々が長居競技場に試合を応援に来て下さいました。今までにない緊張をしましたが、社会人になって会社の方々に応援に来ていただけるなどは夢にも思っていませんでしたので、嬉しさと共にたいへん感動しました。…しかし、そんな試合に限って活躍は出来ないものなのです。でも、試合終了後に挨拶に行った際は、お疲れ様と声を掛けていただき、とても温かい気持ちになりました。

今後は、私自身がまだまだ上手になりたいという純粋な気持ちはもちろんのこと、先輩や後輩に、私の経験してきたことを、サッカーを続けている限り伝えて、より良いチームを仲間と作っていきたいと思います。サッカーは、私に色々な出会い、勉強、体験、感動を教えてくださいました。私はサッカーを心の底から愛しています。

